

2022 年度 愛知学院大学薬学部 ウェスタン大学アメリカ研修 個人報告書

3 年 20A012 池田早伽

私は、令和 5 年 2 月 21 日から 3 月 5 日までアメリカ海外研修に参加した。研修中は主に検定校である Western University of Health Sciences College of Pharmacy(ウェスタン大学薬学部)を訪問し、その他にも病院や薬局などの医療施設を見学した。

Western U では二週間の研修で、「アメリカでの薬学教育」「感染症の疾病薬局専門医」「Evidence Based Practice」「アメリカでの外来診療」「病院薬剤師」「フィジカルアセスメント」「薬剤師のワクチン予防接種」「アメリカの医療制度」「薬学経済」「SOAP ノート」「OSCE」「がん治療薬剤師」などの講義を受けた。その中で特に印象的であった「アメリカの薬学部の卒業後の進路」についてまとめる。

まず、アメリカの薬学部に入るには高校卒業後、普通の 4 年生大学などで教養科目を学び、卒業して学士を取得した後、大学院扱いとなる薬学部を受験する。教養科目としては主に生物学、化学、有機化学、生物化学、人体解剖学、人間生理学、微生物学、

英語、英作文、スピーチコミュニケーション、微積分学などを学ぶ。

修士課程には、Ph.D と Pharm.D の二つがあり、Ph.D は 4～5 年間で、主に研究がメインである。製薬会社などに勤め、新薬の開発などを行う。主に研究しか行わないため、薬剤師の国家試験の受験資格はない。これは、日本の 4 年制薬学部のシステムと似ている。

一方、Pharm.D は 3～4 年間で、主に臨床的な分野がメインである。Pharm.D を卒業後は薬剤師の国家試験の受験資格があるため、薬剤師の免許を取得して臨床の薬剤師として働く人が多いと言われている。他には、治験関連や研究関連の仕事で働くこともできる。これは、私たちのような日本の 6 年制薬学部のシステムと似ている。Ph.D と Pharm.D で修士号を取得後、Dr.として博士課程に進むこともできる。

また、高校卒業後に 5～7 年の Pharm.D に進むシステムもある。

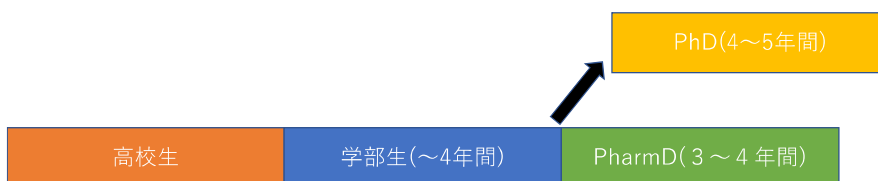


図1. アメリカの学生が薬学部に入るまで



図2. 高校卒業後、すぐに薬学部に進学する場合

また、博士課程終了後のトレーニングとして、レジデンシーやフェローシップと呼ばれる任意で行うプログラムがある。これらは薬学部を卒業し、薬剤師資格取得後の二年間で構成されている。フェローシップは主に研究系のトレーニングで、レジデンシーは主に臨床系のトレーニングである。1年目のレジデンシー(Post graduate year:PGY1)の目的はジェネラリストとしての臨床薬剤師の養成であり、2年目(PGY2)は専門薬剤師の養成である。レジデンシーは指導薬剤師の下、臨床業務・教育・研究・医薬品情報・管理の観点からの研修を受け、臨床/専門薬剤師としての土台を作っていく。多くのレジデンシープログラムは米国の病院薬剤師会で ASHP(American Society of Health-System Pharmacists)により認定を受けている。これらのトレーニングを受けると、自分の将来への視野が広がり、就職の幅が広がる。また、自分に自信がつくと言われており、希望する学生もいるのだ。

レジデンシーやフェローシップのトレーニングの後、どれだけトレーニングしたかの証として、専門分野の資格を取得できる。例として、Board of Pharmacy Specialties(BPS)の Ambulatory Care Pharmacy (BCACP)、Critical Care Pharmacy (BCCCP)、Geriatric pharmacy (BCGP)、Nuclear Pharmacy (BCNP)、Nutrition Support Pharmacy (BCNSP)、Oncology Pharmacy (BCOP)、Pediatric Pharmacy (BCPPS)、Pharmacotherapy (BCPS)、Psychiatric Pharmacy (BCPP)などがあり、これらを取得することができる。

【感想】

Western U での二週間、たくさんの講義を受講し、日本とアメリカの薬剤師の業務、保険制度や医療制度、薬学教育の違いなどをたくさん学ぶことができた。特に感じたことは、アメリカで薬学部に入るには、日本と違って4年間大学で教養科目を学んでから本当に自分は薬剤師になりたいのかを見極めて薬学部に入学する。日本では高校卒業すぐに薬学部に入学するので、なんとなく薬学部で大学生活を送る人も多くない。また、日本は薬学部に入学したら主に薬学しか学ばないが、アメリカでは学士取得の過程で様々な分野を学んで教養を身につけてから薬学部に入学するため、就職してからも教養の知識が役に立ち、就職の幅も広がると思う。薬剤師になるまでに時間はかかるが、日本もこのようなシステムになって欲しいと思う。また、今回のプログラムを通じ、改めてアメリカは医療先進国だと感じた。薬剤師がワクチンを打てたり、患者さんに打診を行ったりなど、日本もいずれアメリカにならって薬剤師の活躍の場が広がって欲しいと思う。将来、私たちが活躍できる場が広がると思うと、とても楽しみであり、国試までの残りの大学生活も頑張ろうと思う。

